

■「サナエノミクス」本格始動

10月に発足した高市新政権による経済政策「サナエノミクス」への期待から、日本株は最高値圏での推移が続いています(図表①)。TOPIX(東証株価指数)は13日まで4日続伸し、連日で最高値を更新しました。

「責任ある積極財政」の考えの下、財政出動によって所得増→消費増→企業収益増という好循環を実現するという高市政権の方針を、市場は好感しているものと見られます。また、各種世論調査で内閣支持率が高水準となり、高市政権の政策実行力が高まるとの期待感も、株高に繋がっていると思われます。

今後の焦点は、高市政権が重視する政策を着実に実行に移せるかどうかという点です。図表②は、政府が月内に取りまとめる予定の経済対策の原案になりますが、最優先事項である物価高対策として、地域で利用できるプレミアム商品券の発行や中小企業の賃上げ支援等が盛り込まれています。

これらの政策の実現に向けて、経済対策の閣議決定や2025年度補正予算の成立をスムーズに行えるかがポイントになると思います。「サナエノミクス相場」の方向性を占う上で、まずは高市政権の政策実行力に注目したいところです。

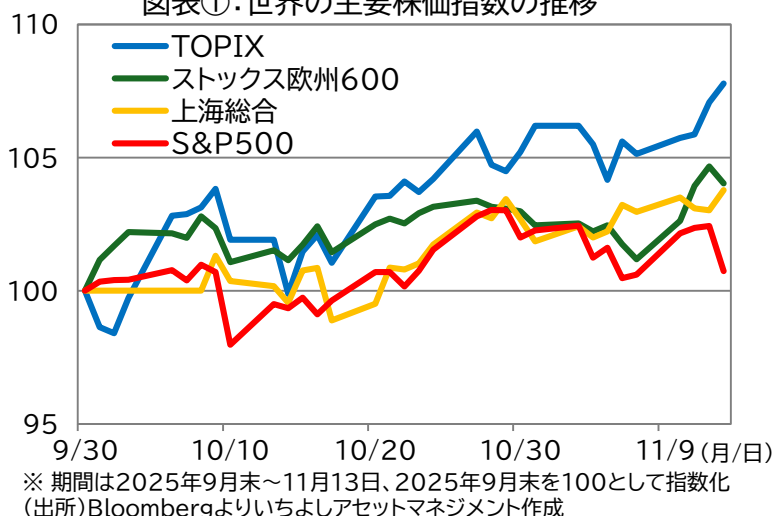
■「アベノミクス相場」再来となれば中長期で上昇か

政策の実現を通じ、サナエノミクスが少しずつ軌道に乗ってくれば、「アベノミクス相場」のような中長期の上昇相場が期待出来ます(図表③)。

サナエノミクスは、財政・金融政策の点でアベノミクスに似ていますが、危機管理投資等の相違点もあります。AI(人工知能)等の先端分野への大胆な投資や構造改革を通じ、日本経済を底上げ出来るかが肝となります。

こうした成長戦略が実現すれば、日本株の期待値(バリュエーション)がさらに切り上がっていくものと思われます。期待値が切り上がってくれば、今後の企業業績の拡大と併せて、株価上昇に弾みがつくと思われます。

図表①:世界の主要株価指数の推移



図表②:経済対策(原案)の概要

①生活の安全保障・物価高への対応	- 重点支援地方交付金を拡充、プレミアム商品券や地域で活用できるポイントの発行を推進 - 厳冬期の電気・ガス代補助 - 中小企業の賃上げ支援
②危機管理投資・成長投資	- 経済安全保障の強化 - 食料安全保障の確立 - エネルギー・資源安全保障の強化 - 防災・減災・国土強靱化投資の拡大 - 先端化学技術の開発支援など未来を切り開く投資の拡大
③防衛力と外交力の強化	- 防衛費の対GDP(国内総生産)比2%達成時期を前倒し - 対米投資に向けた政府系金融機関への財政支援

(出所)各種報道よりいちよしアセットマネジメント作成

図表③:アベノミクス・サナエノミクス相場でのTOPIX推移

